

平成26年 5 月 16 日（金曜日）

午前10時 1 分開会

会議に付した案件

○概要説明

教育委員会、商工観光労働部

1. 本県のスポーツ振興の現状について

○協議事項

1. 委員会の調査事項等について

2. 調査活動方針・計画について

3. 県内調査について

4. 次回委員会について

5. その他

出席委員（17人）

委員	長	山下	博三
副委員	長	有岡	浩一
委員		中村	幸一
委員		星原	透
委員		蓬原	正三
委員		十屋	幸平
委員		横田	照夫
委員		松村	悟郎
委員		内村	仁子
委員		後藤	哲朗
委員		右松	隆央
委員		清山	知憲
委員		太田	清海
委員		渡辺	創
委員		河野	哲也
委員		凶師	博規
委員		徳重	忠夫

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

教育委員会

教 育 長 飛 田 洋

教 育 次 長 原 田 幸 二
(総 括)

教 育 次 長 谷 口 英 彦
(教育政策担当)

教 育 次 長 今 村 卓 也
(教育振興担当)

総 務 課 長 大 西 祐 二

ス ポー ツ 振 興 課 長 日 高 和 典

商工観光労働部

商工観光労働部長 茂 雄 二

商工観光労働部次長 梅 原 裕 二

観光物産・東アジア戦略局長 金 子 洋 士

部 参 事 兼 田 中 保 通
商 工 政 策 課 長

観光物産・東アジア戦略局 孫 田 英 美
観 光 推 進 課 長

事務局職員出席者

政策調査課主任技師 山 口 大 吾

政策調査課主幹 松 浦 好 子

○山下委員長 おはようございます。ただいまからスポーツ振興対策特別委員会を開会をいたします。

まず、委員席の決定についてであります。ただいま御着席のとおり決定してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 ありがとうございます。それでは、そのように決定をいたします。

次に、本日の委員会の日程についてでありま

すが、お手元に配付の日程（案）をごらんください。

本日は、委員会設置後、初の委員会でありまずなので、まず、教育委員会と商工観光労働部より「本県のスポーツ振興の現状」について御説明をいただきます。

委員会の調査事項等につきましては、執行部の概要説明の後に協議させていただきたいと思っております。

以上のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 それでは、そのように決定をいたします。

では、執行部入室のため、暫時休憩をいたします。

午前10時1分休憩

午前10時3分再開

○山下委員長 おはようございます。委員会を再開をいたします。

本日は、教育委員会と商工観光労働部においてをいただきました。

初めに、一言御挨拶を申し上げます。

私は、スポーツ振興対策特別委員会の委員長に選任されました都城市選出の山下博三です。どうぞよろしくお願いいたします。

私ども17名が、さきの臨時県議会で委員として選任をされ、今後1年間、調査活動を実施していくことになりました。

県では、「スポーツランドみやざき」を掲げ「スポーツキャンプ・合宿の誘致」に取り組んでおりますが、平成23年の春には、これまで本県のみで行われてまいりました読売ジャイアンツのキャンプの一部日程が沖縄県で開催されるよう

になるなど、近年は他県との競合が課題となっております。

また、平成32年の東京オリンピックの開催に向け、本県もキャンプ誘致に名乗りを上げておりますが、他県との厳しい誘致合戦の中で本県がキャンプ誘致を勝ち取るためには、PR活動はもちろんのこと、受け入れ体制の整備など、取り組むべき課題は多いと考えております。

加えて、本県のスポーツ振興を考える上で、2巡目となる国体の誘致といった大規模なスポーツイベント等の誘致も考える必要があります。

このほかにも、次世代の競技者や指導者の育成、障がい者スポーツの取り組みや県民がスポーツに親しみやすい環境づくりなど、本県のスポーツ振興を図る上でさまざまな課題があるかと思っております。当委員会の担う課題を解決するため努力してまいりたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願いをいたします。

それでは、着座いたします。

次に、委員の紹介をいたします。

最初に、私の隣が宮崎市選出の有岡浩一副委員長でございます。

続きまして、皆様から見て左側から、都城市選出の中村幸一委員でございます。

北諸県郡選出の蓬原正三委員でございます。

宮崎市選出の横田照夫委員です。

児湯郡選出の松村悟郎委員であります。

都城市選出の内村仁子委員であります。

延岡市選出の後藤哲朗委員でございます。

宮崎市選出の右松隆央委員であります。

宮崎市選出の清山知憲委員であります。

続きまして、皆様から見て右側から、都城市選出の星原透委員であります。

日向市選出の十屋幸平委員であります。

延岡市選出の太田清海委員であります。

宮崎市選出の渡辺創委員であります。
延岡市選出の河野哲也委員であります。
児湯郡選出の函師博規委員であります。
都城市選出の徳重忠夫委員であります。
以上で委員の紹介を終わります。

執行部の皆さんの紹介につきましては、出席者名簿をいただいておりますので、省略していただいております。

それでは、概要説明をお願いいたします。

○飛田教育長 おはようございます。教育長の飛田でございます。

このたび、スポーツ振興対策特別委員会が設置され、委員の皆様方にスポーツ振興について御審議をいただきますことは、スポーツの普及及び振興を所管する教育委員会といたしまして大変ありがたく、スポーツ行政を推進していく上で大きな力になると感謝をいたしているところでございます。

本日は、教育委員会と商工観光労働部、合同で出席をさせていただいております。どうぞよろしくをお願いいたします。

少し思いを話をさせていただきますが、スポーツは心身の健康の保持・増進に大きな役割を果たすとともに、観戦いただく方々に、あるいは応援いただく方々に勇気や感動、元気を与えていただく、そのようなものでありまして、明るく豊かな活力ある社会の実現に寄与するものだと考えております。

県教育委員会といたしましては、「第二次宮崎県教育振興基本計画」においてスポーツの振興を掲げ、学校や競技団体等と連携しながら、次代を担う子供たちの体力向上の推進、県民総参加型のスポーツの推進、感動と夢を生み出す競技スポーツの推進に取り組んでいるところであります。

その成果としまして、広く裾野を広げるという意味におきましては、昨年度の実績で申しますと、小学校5年生、中学校2年生を対象とした全国体力運動能力調査の結果が、九州の中で最も高い結果となっております。それから、感動・夢を与える競技スポーツという視点でいきますと、延岡学園高等学校の野球部の夏の甲子園準優勝、あるいは東京国体での総合成績が38位を初め、後で説明させていただきますが、さまざまな大会において高い成績を選手たちが残してくれております。

国体の総合順位30位台というのは、県の総合計画の重点指標としても掲げておりますが、昨年度の38位、その前年、前年を含めまして3年連続30位台を達成できたといえますのは20年ぶりのことでもあります。平成4年に宮崎インターハイがあった、そのころの強化以来のことで、非常に喜んでおります。

このような中、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、スポーツへの関心やスポーツへの参加の機運が高まっているところであります。県教育委員会といたしましては、国体の2巡目の本県開催も見据えながら、商工観光労働部や競技団体と連携を図り、今後とも競技力の向上を初めとするスポーツの振興にしっかり取り組んでまいりたいと考えておりますので、山下委員長を初め、委員の皆様方の御指導、御鞭撻、御支援をよろしく願いしたいと思っております。

それでは、座って説明をさせていただきます。

資料を簡単に説明させていただきますが、「スポーツ振興対策特別委員会資料」、下のほうに「教育委員会」と記載いたしております資料をごらんください。中ほどに目次を示しておりますが、教育委員会からは、本県スポーツ振興の全体構

想と本県の競技スポーツの取り組み状況等について御説明をさせていただきます。

詳細につきましては、この後、担当課長が説明いたしますので、よろしくお願ひしたいと思います。

私からは以上でございます。

○日高スポーツ振興課長 本県では、平成23年6月に「第二次宮崎県教育振興基本計画」を策定し、その中に本県のスポーツ推進に関する計画を示しており、その具体化に向けた取り組みを進めているところであります。

それでは、資料の1ページ、「本県スポーツ振興の体系図」をごらんください。

一番下には、スポーツを取り巻く社会の変化に伴う本県スポーツの現状と課題について示しております。特に、児童生徒の体力・運動能力の状況は、昭和60年ごろをピークに低下傾向が見られることや、成人の週1回以上のスポーツ実施率が全国とほぼ同じ状況にとどまっていること、国民体育大会の男女総合成績が安定した状況ではないことなどから、スポーツ実施率、児童生徒の体力・運動能力、競技力、生涯スポーツの普及という4つの観点から課題を捉えております。

その上には、県民意識の高揚や人材の育成とネットワークの活用などの、スポーツを支える環境の充実を土台にして、計画推進の3つの柱について示しております。

1つ目の柱、次代を担う子どもたちの体力向上の推進は、たくましく人生を切り拓くための体力の向上を目指し、各学校における体力向上プランの計画的・継続的な実践を進めるとともに、運動遊びや水遊び等の研修会を実施するなど、幼児期からの体力づくりを推進しております。

2つ目の柱、県民総参加型のスポーツの推進は、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことのできる「生涯スポーツ社会」の実現を目指し、全ての市町村に総合型地域スポーツクラブの設立を目指すとともに、県民総参加型のスポーツ大会の充実を図っております。また、市町村や関係機関等とより一層連携し、生涯スポーツを支える人材を育成しております。

3つ目の柱、感動と夢を生み出す競技スポーツの推進は、国際大会や全国大会で活躍し、県民に感動と夢を与えるアスリートの育成を目指し、競技力の向上と安定を図るために、関係団体や市町村と連携しながら、ジュニア期からの選手の育成強化や指導者の養成・確保、競技力を支える環境整備などを推進しております。

これらの3つの柱に取り組むことにより、「スポーツの生活化」が図れるものと考えております。

次に、今回の特別委員会にかかわります3つ目の柱、感動と夢を生み出す競技スポーツの推進につきまして具体的に御説明いたします。

資料の2ページをごらんください。本県の競技スポーツの取り組み状況等を御説明いたします。

まず、1、主な取り組みとしまして、(1)選手の育成強化を図るために、ア「少年競技力向上対策総合推進事業」では、少年競技力の維持・向上のため、未普及競技や地域スポーツの振興、高等学校競技力強化推進校の指定による支援、小中高一貫指導体制の構築、発達段階に応じた指導体制の確立を図っていきます。イ「運動部活動支援事業」では、中学生の優秀チームや優秀選手を発掘、中学校競技力向上推進校の指定による支援、中学生の優秀選手を集め、高校生との合同練習や研修会を実施いたします。

ウ「夢・実現甲子園優勝プロジェクト事業」では、甲子園優勝を目指す選手の育成・強化や指導者育成を行います。エ「選手強化対策事業」では、国民体育大会において入賞が期待される競技種別や個人を支援いたします。

次に、（２）指導者の養成・確保としまして、ア「指導者養成総合事業」では、指導者の資質向上を図ります。

次に、（３）競技における支援体制の充実としまして、ア「スポーツメディカルサポート推進事業」では、競技者が安心してスポーツができる環境の整備を行います。イ「みやざき競技スポーツ特別強化対策事業」では、さらなる競技力の向上を目指すトップレベルの選手への支援を行います。ウ「顕彰事業」では、スポーツ栄誉賞・特別賞の授与、学生栄誉賞の授与を行います。エ「宮崎チャレンジマッチ開催事業」では、招待試合、小中学生との交流イベントを開催いたします。

次に、２、主要大会の成績について御説明いたします。

まず、（１）国民体育大会については、アの天皇杯総合成績では、平成23年度から25年度は、本県が目標としております天皇杯順位30位台を3年連続で達成することができましたが、まだ安定して30位台を確保する状況ではありませんので、さらなる取り組みが必要であると考えております。

資料の3ページをお開きください。

イは、団体・個人の入賞競技・種別数の推移をあらわしております。ウは、成年種目と少年種目の獲得得点の状況や、男子・女子の獲得得点の比較をあらわしております。例年は少年種別で多くの得点を獲得しておりますが、去年は成年種別の得点が多くなっております。エは、

団体で入賞した競技をあらわしております。去年は、6競技、8種別が入賞しております。

資料の4ページをごらんください。

オは、個人で入賞した競技をあらわしております。去年は、カヌー、ウエイトリフティング、レスリング等の活躍を筆頭に、10競技、41種目が入賞しております。

資料の5ページをお開きください。

次に、（２）全国高等学校総合体育大会では、アは団体で入賞した競技をあらわしております。去年は、5競技、5種目が入賞しております。イは、個人で入賞した競技をあらわしております。去年は、7競技、19種目が入賞しております。ウは、平成22年度から25年度までの入賞数及び優勝数の推移をあらわしております。

資料の6ページをごらんください。

次に、（３）は全国高等学校野球選手権記念大会の成績であります。去年は、本県代表の延岡学園高等学校が準優勝という成績を残しております。

次に、（４）全国中学校体育大会では、アは団体で入賞した競技をあらわしております。去年は、2競技、2種目が入賞しております。イは、個人で入賞した競技をあらわしております。去年は、4競技、5種目が入賞しております。ウは、平成22年度から25年度までの入賞数及び優勝数の推移をあらわしております。エは、九州中学校体育大会での3位以上の入賞数の平成20年度から平成25年度までの推移をあらわしております。ここに示していますように、年々入賞者数が増加しており、それが全国高校総体や国体の成績につながっているものと考えております。

最後に、本県のスポーツがさらに安定した成績を残すための課題といたしまして、競技力向上に対する県民への理解、一貫指導体制の構築

などによる少年種別の継続的な強化、成年種別の重点強化指定による競技力の向上、未普及競技と女子競技の育成と強化、指導者の養成と確保、特技競技の育成と強化、競技団体と関係機関・団体等との連携・協力体制が挙げられます。

教育委員会の説明は以上でございます。

○茂商工観光労働部長 おはようございます。商工観光労働部長の茂でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、座って説明をさせていただきます。

さて、商工観光労働部におきましては、「スポーツランドみやざき」を積極的に展開しているところではありますが、このような中、昨年、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会の開催が決定をいたしました。

県といたしましては、国内外に宮崎の食、観光、神話など、さまざまな魅力を発信し、その効果を本県の発展に結びつける絶好の機会と考えているところでありまして、昨年12月には「スポーツランドみやざき推進協議会」に「東京五輪おもてなし部会」を設置し、県内の関係者が一丸となって日本代表やジュニア強化の合宿、海外チームの直前合宿の誘致等に取り組んでいくところでございます。

商工観光労働部といたしましても、山下委員長を初め、委員の皆様方の御指導、御支援をいただきながら、教育委員会とも十分連携を図り、効果的な施策の展開を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

また、県におきましては、世界に誇れる日本一のおもてなしの構築と発信を目標にしまして、「みやざき東京オリンピック・パラリンピックおもてなしプロジェクト」を推進することとしており、今後、この取り組みの中で、県、市町村、民間団体が一体となりまして、宮崎の魅力

発信や外国人の誘客効果、おもてなし環境の充実等に取り組み、宮崎を国内外にアピールをしていきたいというふうに考えておりますので、引き続き御支援、御協力をよろしく願いいたします。

本日、商工観光労働部からは、オリンピック・パラリンピック東京大会に向けました合宿誘致等の取り組みについて説明をさせていただきますが、詳細につきましては、この後、担当課長から御説明いたします。

私からは以上でございます。よろしくお願いいたします。

○孫田観光推進課長 観光推進課でございます。オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた合宿誘致等の取り組みについて御説明いたします。

商工観光労働部の「特別委員会資料」1ページをごらんいただきたいと思います。

まず、1のスポーツランドみやざき推進協議会「東京五輪おもてなし部会」の設置等についてであります。

(1)の経緯であります。2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催は、スポーツキャンプのメッカである本県にとりましても絶好のチャンスでありますことから、日本代表やジュニア選手の強化合宿及び海外チームの直前合宿等の誘致を図り、国内外の活力を取り込むことで本県経済や地域振興の活性化につなげていくことを目的に、昨年12月9日に設立したものであります。

続いて、(2)の構成メンバーについてであります。

当部会につきましては、本県が掲げるスポーツランドみやざきを官民一体となって推進していく組織であります「スポーツランドみやざき

推進協議会」、この部会として設置するものであります。

構成メンバーは、県から観光推進課と教育庁のスポーツ振興課、協議団体から、宮崎県体育協会、宮崎県障害者スポーツ協会のほか、オリンピックの競技種目に該当する県内の各競技団体、市町村を代表して、宮崎市、また、関係団体からみやざき観光コンベンション協会と宮崎市観光協会とで組織しております。

次に、(3)の主な誘致活動であります。昨年12月1日、講演のため来県されました日本トップリーグ連携機構の市原則之代表理事専務理事及び日本オリンピック委員会選手強化部長の橋本聖子参議院議員を、知事・副知事が表敬訪問しましたほか、同月28日には、視察のため来県されました文部科学省の下村文部科学大臣、櫻田副大臣、富岡政務官を知事が表敬訪問したところでもあります。

さらに、ことし1月10日には知事が上京いたしまして、文部科学省の櫻田文部科学副大臣、久保スポーツ・青少年局長、日本オリンピック委員会の青木副会長兼専務理事を訪問したほか、日本ラグビーフットボール協会会長、日本トップリーグ連携機構会長などの要職につかれ、24日には東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の会長に就任されました森喜朗元総理を訪問し、東京五輪に向けた本県の取り組みをアピールしたところです。

次に、2の本県における日本代表合宿の受け入れ実績等についてであります。

まず、(1)のラグビー日本代表につきましては、来年開催されるイングランドワールドカップ大会のアジア地区最終予選となるアジア5カ国対抗に向けた直前合宿が、4月18日から24日まで、フェニックス・シーガイア・リゾート

スクエア1で実施されたほか、(2)のトライアスロンU23日本代表につきましては、23歳以下の日本代表選手及び2020年の東京五輪の有力候補選手の育成を目的にした強化合宿が、4月28日から5月3日まで、みやざき臨海公園やーツ葉有料道路などで実施されたところです。

(3)の日本ゴルフツアー機構(JGTO)のゴルフ強化セミナーにつきましては、オリンピックを目指したプロゴルファーが参加し、1月27日から2月21日まで、3回に分けて、フェニックス・シーガイア・リゾートにおいて実施されたところでもあります。

(4)の自転車パラサイクリング代表候補につきましては、2016年リオデジャネイロパラリンピック出場を目指す強化指定選手が参加した合宿が、1月17日から19日まで、西都市西都原、国道219号米良街道で行われたところです。

また、ここには記載していませんが、ソチオリンピックのスキージャンプラージヒル団体で銅メダルを獲得した伊東大貴選手、清水礼留飛選手が所属する雪印メグミルクスキー部が、今月11日から18日まで、宮崎市の生目の杜運動公園などで合宿を実施しております。

なお、平成15年度以降の国内外代表合宿の受け入れ実績につきましては、別添、参考資料のとおりとなっております。

次に、3のナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設の指定についてであります。

ナショナルトレーニングセンターにつきましては、東京都北区にある味の素ナショナルトレーニングセンターが中核拠点として位置づけられているところでもあります。しかしながらこの施設では、冬期、海洋・水辺系、屋外系のオリンピック競技及び高地トレーニングには対応できないため、文部科学省は既存のトレーニング

施設をナショナルトレーニングセンター（NTC）競技別強化拠点施設と指定しているところであり、これにより、トップレベル競技者が集中的・継続的にトレーニングを行うことが可能となり、国際競技力の向上が図られることとなります。

このような中、（1）のゴルフにつきましては、2016年リオデジャネイロ五輪から正式競技種目となりますことから、文部科学省がNTC競技別強化拠点施設を公募し、先月14日、フェニックス・シーガイア・リゾートが、NTCとしては九州で初めて指定されたところとなります。今後、フェニックス・シーガイア・リゾートが拠点となり、リオデジャネイロ及び東京五輪に向けた選手強化が図られていくこととなります。

また、（2）のトライアスロンにつきましては、日本トライアスロン連合が、ことしの3月22日の理事会において、フェニックス・シーガイア・リゾートと周辺施設を連合の強化拠点として指定したところであり、県としましては、今後、国のNTC競技別強化拠点施設の指定につながるよう取り組んでまいりたいと考えております。

なお、このたび、来月ブラジルで開催されますサッカーワールドカップの日本代表選手に、本県出身の伊野波選手が選出されるという明るいニュースがありましたが、日本代表の国内最終調整となる直前合宿が鹿児島県指宿市で実施されることとなりましたことは、大変残念に思っております。今後、県におきましては、今回の反省を生かしまして、サッカーを初めとする各種競技の日本代表の合宿誘致に取り組んでまいりたいと考えております。

説明は以上であります。

○山下委員長 以上で執行部の説明が終わりま

した。

御意見、質疑がございましたら、御発言をお願いいたします。

○右松委員 商工観光労働部に質問、質疑したいんですが、宮崎を世界にPRして、経済効果浮揚云々に東京五輪は絶好のチャンスということで話がされておまして、プロ野球とかサッカーとか、御承知のとおり、運動チームの合宿を多く受け入れておりますので、その実績とかノウハウとか、それを生かしていけば一定の成果は出るのではないかと、私は期待をしているわけなんですけれども、それにあぐらをかいては、当然、誘致合戦、熾烈にもう全国で始まってますので、誘致合戦に負けてしまうことにもなりかねないというふうに考えています。

そこで2点伺いたいんですけれども、1つは組織形態についてでありますけれども、本県におきましては、スポーツランドみやぎの推進協議会の中に東京五輪おもてなし部会ということを設置をされて、これが12月9日ということでございます。一応、他県の状況をちょっと調べてみましたら、12月9日の設置というのは、決して早いほうではございませんでして、神奈川県が10月4日、それから秋田県が10月15日、栃木県が10月22日、静岡県が10月25日等々、11月も幾つかの県が、もう本部を立ち上げております。

そこで、やはり誘致合戦に勝っていくために、当然、早目早目に動いていくことが肝要になってくるわけなのですが、2つ伺いたいのは、1つは、他県は全て推進本部という形で大きな――その組織の中の人員に関しては、ちょっとまだ確認してませんが、しっかりとした本部を立ち上げておまして、本県におきましては推進協議会の中の部会という形になってま

すけれども、この推進協議会内の部会というこの位置づけで、果たして誘致合戦に勝っているのかどうかというのが1点と、それからもう一つは県内の市町村との関係づくりでありますけれども、市町村の担当者を対象とした説明会等々は既に行われているのかどうか、そのあたりを2点伺いたいと思います。

○孫田観光推進課長 委員御指摘のとおり、他県でこういった組織を立ち上げる動きに比べて、宮崎県がそれほど早いほうではないというのは事実でございますが、しかしながら、本県の場合は他県と違う部分が、スポーツランドみやざき推進協議会という、もともとのものが長年の蓄積をもって動いていると、その中で東京オリンピックという形での部会を設置したということございまして、他県はもともと何もないところからスタートしてるわけでございますので、その点では決して負けているというふうに考えてるところではございません。

もう一方、一部会でいいのかという御指摘でございますけれども、今回のこの部会につきましては、誘致等につきまして、ある意味、特化した形でそのノウハウを生かしていこうという形で設置しておりまして、これは、実は本来全庁的に取り組んでいくことだろうということで、現在、総合政策部のほうで、全庁的な組織体制というものを、スポーツ合宿だけでなくもっと幅広く取り組んでいこうということで、おもてなしプロジェクトというような形で現在検討されてるというふうに聞いております。

市町村につきましては、まだ具体的にこれについての説明会という、単独で開いてはおりませんけれども、従来も、いわゆる、このスポーツランドみやざき推進協議会というものは、市町村と密接に協力して、この合宿等につきまし

てのスケジュール調整とか施設の利用の調整等を行っておりまして、そういった形での市町村の連携等は、ふだんからとっているというふうに考えております。

○右松委員 もう、詳しいことは伺いませんけれども、秋田県は、1月の21日には、もう既に市町村に対してオリンピックの誘致ということで説明会を開いております。ですから、本県もしっかりと市町村との連携を深めていただきたい。それから、全庁挙げて取り組む体制を構築していくということでもありますので、ぜひそこはしっかりと。私も期待をしているところであります。

それで、実はもう一点伺いたいのですけれども、聖火リレーのコースについて、この委員会で質疑をしていいのかどうか、ちょっと迷いましたけれども。実は、1964年の前回の東京オリンピック大会におきまして、聖火リレーのコースの起点が3つありまして、その3つが、鹿児島それから宮崎そして北海道の千歳なんです。この3つが起点になって、北海道は2つに分かれていますので、4コースに分かれて東京にたどり着いたというコースなんです。私は、非常にこの視点というのは、実は宮崎がやはりスタート地点に入っていると、起点になっているということで、宮崎神宮で御祈願をして、それから平和台公園に行って、大分そして四国のほうに回っていくんです。鹿児島のほうは九州の西部のルート、山口、本州のほうに入っていくのですけれども。ぜひ、この聖火リレーの起点という、私は、これはもう一つの宮崎の県益につながるものだと思っていますので、この起点はぜひ取り逃がすことのないように、一方で進めただけであればありがたいなど、強く要望をさせていただきたいと思っています。

○孫田観光推進課長 まず、済みません、市町村の担当者会議ですけれども、うっかりしておりました。今月開催するというので、今、準備をしております。失礼いたしました。

それと、聖火リレーのコースにつきましては、これは、過去において宮崎が起点の一つとなった、このときも、大変な県民運動といたしますか、県が一丸となった取り組みでこれを実現したという経緯があることは承知しております、実は、知事もこの点については非常に、関心といたしますか、ぜひ実現したいという強い意欲を持っております。先ほど申し上げました上京して知事が文部副大臣等にお会いした際も、ぜひ聖火リレーについて宮崎を、過去の経緯があります、ぜひ宮崎にお願いしたい、というような形で各方面をお願いをして回ったということもしております。

実は、昨日、オリンピック組織委員会の幹部が本県のほうに御挨拶といたしますか、お話しに来られまして、その席でも、宮崎県としては、この聖火リレーをぜひ起点としていただきたいというような御要望を、また、開会式典においては、宮崎の神楽をぜひ生かしたものにしたいというようなお話を申し上げたところでございます。

ただ、組織委員会といたしましては、まだ余りにも具体的なことについては早いですよねと、組織委員会としては、今、組織を立ち上げることを一生懸命やっておりますということではありましたが、御理解はいただけたのではないかというふうに考えております。

○右松委員 ぜひ前倒しで、もう今のスケジュールをしっかりと取り組んでいただければありがたいなと思っております。

以上です。

○十屋委員 教育委員会のほうにちょっとお尋ねしたいのですが、2ページにあります競技スポーツの取り組み状況等について、指導者の養成・確保、2行しかないのですけれど。行数が多いからいいというわけではないのですが。結局、先ほどの国体の成績を見ても、少年男子それと少年女子なりの競技力を上げていって、勝つことだけが目的ではないのですが、点数がとれるところといたらそこだと思うんですね。そうやってきたときに、やはり小中高の指導者ということになってきますと、どうしても、前回の国体のときにあったように、教育に携わる先生方の力という部分はかなり大きかったと思うんです。それから、もう数十年たちまして、ちょうど定年を迎えられて、そういう指導者の方々、経験された方々がいらっしゃらなくなるというときが、今、来てると思うんです。1つお聞きしたいのは、競技力を上げるために、その時点でやった、あるレベルの競技力を持つてる選手を、教職員としての採用試験の枠とかに何か考慮することがあるのか、そのあたりをちょっとお聞かせいただけますか。

○日高スポーツ振興課長 現在、教育委員会では、特別選考制度を行っております。全国でベスト8以上の成績をおさめた指導者で、指導者としてもすばらしい指導力がある人材を毎年計画的に採用しております、2巡目国体まではこの事業をずっと充実していこうということで行っております。

また、宮崎国体で活躍された方が、今ちょうど定年を迎えていらっしゃいます。あと2年後が、その国体の年に採用された、活躍された方が多く退職されますので、今現在、そういった方々に対して、2巡目国体を控えているので、別な形で、今、現場で若い指導者に対している

いろな形で、外部指導者等も含めて、再任用も含めて、継続的に指導者の育成というか、そういった取り組みにも協力をさせていただくということは、多くの方に了解をいただいておりますので。今の国体で高い成績をおさめていただいている指導者も、まさにそういった方々ですので、そういった方々の指導経験は、これから先の宮崎の財産として活用していきたいといえますか、協力をいただきたいという思いでいますので、そういった形で、今、取り組んでるところです。

また、採用については、今、教職員の採用が年々、少子化に伴って少なくなっておりますので、企業においても、今、7年ぐらい前からでしょうか。教員の採用が少なくなるのと並行して、各企業にお願いをして、成年受け入れという形で各企業を我々回っております。宮銀の前会長が体育協会の会長であるということもあって、宮銀みずから採用していただくということで駅伝部をつくったりとか、今、カヌーあるいは硬式テニス、ライフル射撃とか、いろいろな競技の職員を採用していただいております。あわせて、太陽銀行もスケートの選手を2人ほど採用していただいたりとか、いろいろな形でその輪が広がっておりますので、これから2巡目国体に向けては、県民を挙げて、そういった有能な人材が宮崎に帰ってこれるような環境を、少しずつでも整備していきたいというふうに思っております。

以上です。

○十屋委員 それと、もう一つは、少子化という言葉が出ましたように、少年団の団員数の減ということが如実にあらわれてますよね。だから、そのあたりもやはり底上げしないと、結果的には上につながっていかないというところで。私も、いろいろ結団式とかに出るのですが、年

々減ってきているなということを実感してまして、そのあたりもあわせて団員数をふやしていくことと、少年団にかかわる指導者、これはコーチの資格が要るなどしていろいろ課題もあるのですけれども、そのあたりの指導者も、やはりある程度——今、一般任せっていうか、保護者だったり、競技団体の関係者だったりという方が中心になってやっておられると思うのですが、そのあたりも、先ほど言われた定年された方々の力もかりるとか、そういう方法をぜひとっていただきたいなと思います。これは、もう要望でいいです。

もう一つは、ハード整備の計画についてはどうなっているかということと、国体の基準、いわゆる大きさだったりキャパの関係も含めて。それは、以前と全然変わってきていると思うのですが、そのあたりの計画づくりとかという部分は進んでいるのですか。

○日高スポーツ振興課長 まず、ハードの整備ですけれども、本当に県の厳しい財政状況の中で、今は、改修といいますか、そういった、県民が使いやすいような、あるいはけが・事故等が起こらないような改修を優先してやってる状況であります。

あと、国体基準も、プールや陸上競技場、そういった施設は、年々スポーツの人気といいますか、観客動員数が多くなっておりますので、以前よりも大きいスタジアムあるいは体育施設という形になっておりますが、今のところは、まだそういったところに対しては基準等を調査したり、あるいは市町村がどういった施設を持っているのかということ調査している状況でありまして、当然、国体が開催されれば、それに見合った施設をつくるためには、何らかのしっかりとした計画等も考えなくてはいけない時期

が来るのだらうというふうに思っておりますが、今は、先進県とか、あるいは国体を開催した県のいろいろな状況等を調べたり、あるいはスポーツランドにつながるようなすばらしい施設等の調査をしたりとか、そういった取り組みをしております。

以上です。

○十屋委員 最後に……。この前の議会でもそうですけれど、松村議員かな、言われたの。取り組む県としての姿勢を、いつ発表するかというタイミングだと思うのですが、そろそろいいんじゃないかなと個人的には思っておるのですけれど、そのあたりはどうなのですか。

○日高スポーツ振興課長 文科省と日本体育協会に申請する時期があるのですが、10年前になっております。今現在、佐賀県がことしの3月末ですかね、申請を上げております。10年後までは決まっております。あと、12年後が西日本の開催枠、それと15年後が開催枠ということで、今まで1巡目の順番で大体来ております。

ただ、これは、九州各県、四国、中国地方の体育協会の方々と協議によって決めることでありまして、意思決定をした県を承認していただくとか、あるいはうちが先にやりたいとかそういったことを、各県の思惑等ありますので、それは1巡目どおりにはっていない状況がありますので、そういったことをいろいろな調査をしながら、タイミングとしてはそう長くない時期というか、十分、これからそういった各県の考えもお聞きしながら、いざそのときになって慌てて手を挙げることはないように、しっかりと調整とか準備とか、そういった調査はしていかなくちゃいけないというふうに考えております。

○渡辺委員 まず、商工のほうにお伺いをしま

すが、先ほど資料の説明でありました競技別強化拠点施設についてのお話なんです、これ、ちょっと済みません、不勉強で。まず、文部科学省が指定をするというものというふうに理解をしていいのかなと思ったのですが、ゴルフはそういう正式な指定を受けていて、トライアスロンに関しては競技団体が指定をしているということでまず理解していいのかということと、あと、さまざまな競技があるわけですが、これ、今後もさまざまな種目に関して、こういう競技別の拠点施設としてまだ指定を受けられる可能性がたくさん残っているものなのか、もうさまざまな種目で決まっていて、もう事実上これ以上はなかなかとれませんよというものなのかということが1点目。

それと、さらに宮崎でとるという場合に、実際、その対応できるような施設のキャパシティの問題も考えたときに、これ以上、まだ複数の競技のそういう拠点となることができるのかという見通し。

それと、あと最後には、拠点として指定をされると、例えば、指定されたことによって施設整備の一定程度の費用の面倒を国に見てもらえるといったように、キャンプが終わった、東京オリンピックが終わった後にも、宮崎県民に間接的には得になるというようなものが得られるものなのかどうかというのを、ちょっと教えていただければと思うのですが。

○孫田観光推進課長 まず、指定については、国が正式に指定しますのは文部科学省ということで、ゴルフについてはその形になっております。トライアスロンについてはまだ競技団体の指定ということでございまして、次のステップとして、ここから国の指定をいただければというふうに考えているところでございます。

また、ほかに指定の可能性があるのかどうかということですが、競技は各地域のそれぞれの特性といったものもありますので。例えば、冬季競技を宮崎県でというわけにもいきませんし。さまざまな種類がある中で、宮崎県で指定される可能性のある、それだけのレベルの競技施設というものもありますので、そういう意味では、まだ幾つか可能性があるというふうに見ているものは予定をしております。できれば、それを実現したいということで、現在取り組んでいるところでございます。

また、この競技別の強化拠点指定施設になりますと、そのさまざまなハード整備等につきましては国のほうから費用が出るということで、その内容の充実が図られるというふうに聞いておりました、ゴルフについても、今、そういった準備をしているというふうに聞いております。

○渡辺委員 もし、差しさわりがなくて、わかっているのであれば、例えばゴルフの指定を受けたことによって、どのぐらいの整備費用の補助があるのか、もし——まだそこまではいってないという段階ですかね。

○孫田観光推進課長 この整備費等、ハードとソフトのお金がそれぞれ国のほうから出てくるわけですが、ハードにつきましては、指定を受けました、例えばシーガイアのほうに払われるということで、県を経由したりはしないということですが、今聞いております範囲では、おおむね1,600万円ほど出るというふうな話で聞いております。

○渡辺委員 済みません。ちょっとテーマが変わりますが、教育委員会のほうになりますか。

先ほど体系図の御説明をいただいた中でも、2つ目の大きな柱になってる県民総参加型のスポーツの推進という意味では、総合型の地域ス

ポーツクラブのお話も先ほどありましたが、今、県内でも、数は30ぐらいだったと思うのですが、順調にふえているかと思うのですが、聞くところによると、クラブの運営自体が、的確にという言い方が正しいかわかりませんが、充実して行われているところもあれば、そうでないところもあると。実態上、休眠状態のようなクラブも全国的にはたくさんあるというふうになっていきますけれども、文科省も県も、進めるといいますか、たくさんクラブができていって充実するよというふうに取り組んできたのだと思いますが、県内で解散の事例であったりとか、事実上休眠の状態にあるクラブ等々が、今、できたものの中であるのかどうかということをお伺いしたいと思います。

あと、もう一つあわせて、特に早くできたクラブではt o t oの助成がもう切れ始めますよね。県内で一番最初にできた東大宮のスポーツクラブは、今年度からはt o t oの助成はなくなるはずですが、見ていると、900万ぐらいの運営のお金の中で百三、四十万の助成がなくなるということなので、なかなかダメージとしては大きいというふうに見ているのですけれども。そういうところについて、県としてのお考えがあれば教えていただきたいと思います。

○日高スポーツ振興課長 休眠中のクラブは、本県の場合はございません。

ただ、当初、宮崎県で一番最初にできたクラブは、東大宮ではなくて、田野なんです。ただ、田野の場合は、まだ総合型が始まってすぐの年だったので、田野町のクラブの思惑と国が言っている思惑が違っていたということで、1年目に取りやめたという事例はあります。

それと、実際、設立を準備しているクラブがあるのですが、その設立準備段階で、やはり本

地区ではこの総合型はなかなか設立が難しいだろうということで取りやめになったクラブは、1クラブほどございます。

それと、予算についてであります、基本的には、今、スポーツというものは受益者負担の原則をとっておりますので、設立に向けては施設の整備とか用具の整備とか、いろいろな環境整備が必要だろうということでt o t oの補助等があるのですが、理想的な形は、やはり自立して自分たちで自主運営ができる、そういったクラブでないと未来永劫発展していかないのだろうということが理想の姿であります。

しかし、そういったところまで高めていくには、現時点ではまだ日本はそれほどスポーツ文化が——ヨーロッパは100年以上の文化がありますので、ヨーロッパではスポーツクラブは当たり前のように定着しているのですが、日本ではそこそこ30年、40年のクラブ設立になりますので、多分そこまでいくには、やはり50年とか100年のスパンが必要だろうなと思いますので。

そういった意味で、県といたしましても、やはり一番大切なのは指導者とか組織を支える人材だと思っておりますので、いろいろな形でそういった部分を継続的に支えていって、自主運営ができるような、自立できるようなクラブ育成に向けて、これからも継続的に県としては支援していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○渡辺委員 委員長の御許可がいただければ、きょうでなくても結構ですので、次回以降の委員会の中で、県内の総合型のスポーツクラブの数、名称とか、あと会員数がどのくらいあるのかとか、拠点としている地域はどこなのかとかという、そういう全体が把握できるような資料をぜひいただけないかと思いますが、委員長の

ほうでよろしくお願ひしたいと。

○山下委員長 よろしいでしょうか。

○日高スポーツ振興課長 準備いたしたいと思ひます。

○山下委員長 では、よろしくお願ひします。

○図師委員 今の総合型地域スポーツクラブの件なのですが、これは東京オリンピック開催ともちょっと関連が出てきているような気がして、そちらの開催が決まってからt o t oからの補助金が大幅に削減になっているのですよね。今回、県内から上がってる準備委員会も含めての活動計画の予算が、4団体か5団体ぐらい、もう結局予算がつかなくて活動を断念せざるを得ないような状況のクラブもあると聞いてます。それらの、今、渡辺委員が言われたように、活動が軌道に乗るまで、おっしゃられたようにお金を払って、もう今後はスポーツをするという醸成をしていくためにも、助走期間にはやはり補助金が必要だと思うのですが、そういうところに県がどういう形でお手伝いできるのか。一つの例としては、例えば、教育委員会なり市町村の社会教育課が抱えているスポーツ行事の指定管理なり委託を率先してやっていくというようなことなども、今後視野に入れていく必要があるかと思ひますけれど、そのようなお考えはいかがでしょうか。

○日高スポーツ振興課長 委員がおっしゃるような状況は、ある野球場を管理委託しているとか、一拠点、体育館をその業者に管理委託しているという市町村は、全国にたくさんあります。そういったことも含めて、市町村も厳しい財政状況等があると思ひますので、今後、市町村としっかりまた協議をしながら、宮崎ならではの、できる、そういった支援体制についても、また研究をしてまいりたいと思ひておりますので、

貴重な御意見をありがとうございます。

○**図師委員** ぜひ、具体的に。お願いします。

以上です。

○**山下委員長** よろしいでしょうか。ほかにありますか。

○**太田委員** 教育委員会のほうですが、スポーツの関係でいうと、スポーツというのはやはり楽しいものなんですね。ただ、今、現状を見ると、スポーツの光と影といいますか、光の部分はよくわかるのだけれど、影の部分が意外と隠されてあるように思うのですが。というのは、燃え尽き症候群といいますか、非常に鍛えられて、それなりの優秀な成績を中学校、高校時代に上げた子供たちが、社会人になると、途端に、もういい、もうしない、嫌というような燃え尽きの人たちもおるのです。せっかくやったのに、スポーツの本当のおもしろさがわからずに、もうその苦しさの余り、もういいです、しませんというような感じの子供たちもおるやに聞いてます。実際、私も見てきているのですが。

ただ、この1ページのスポーツ振興の体系図、全体を見てみると、私はこのイメージはいいと思うんです。例えば、生涯スポーツの普及や明るいスポーツ文化の創造、いつでもずっとスポーツがやれるようにというイメージです。教育長が最初に挨拶で言われた、応援する側にも感動があるんだよというその部分、私は、そこはもう本当に大事なことだと思います。

2ページ目の、先ほど十屋委員からも出ましたが、指導者の養成・確保というところ、ここに指導者の資質向上というものがあります。資質向上ということは、技術の高い人ということももちろんあるだろうと思いますが、子供たちが、このスポーツをずっとやろうね、頑張ろう

ね、そして自分たちが技術を高めることがどんなに楽しいかということも含めて教えてあげないと、ただ勝敗にこだわってやると、もうぎりぎり、子供たちはつらいんですね。私自身もそういう体験があるのですが、私の場合、指導者がゆったりとした人だったものですから、楽しく今もスポーツをやって、今度の県体にも出場することになっているのですけれど。スポーツというものは本当に楽しくて、私も指導者としてやったときに、高校に行ってもこのスポーツ続けようねというふうに指導していったのですけれど、それなりの子供って、見るとやはりいい成績をまた上げていくんですね、楽しく学ぶと。だから、ぜひ教育の一環としてもあろうかと思えますので。

私、余り否定的なことを言うといけないのですけれど、国体で順位が何番だとかいうこともあるけれど、私はスポーツをする人口がいかにかふえるか、そのことによって健康も充実してくるわけですし、いろいろな医療費の問題も出てくるし、スポーツ産業もそれで豊かになるんです。だから、私は、あまり、こういう場ではふさわしくないかもしれないけれども、順位にこだわらずに、むしろ宮崎県は底辺が広がってるんだよと、スポーツを愛してる人がいっぱいおって、スポーツ産業も活性化しているよというぐらいのものも、宮崎ならではという意味ではあってもいいかなと思ったりするのですけれど。そういう意味では、教育者のところの資質向上の中に、ぜひ、技術の向上もそうだけれども、みんなで楽しくやろうじゃないかというような、そのようなものも資質の中に入れてほしいなという気がいたします。

以上です。

○**日高スポーツ振興課長** ありがとうございます

す。

県のほうで研修をやっているものとしまして、若手指導者の研修を2泊3日から3泊4日で、これはトップアスリートを指導してる指導者です。それと、中堅指導者もやはりそういった形で、自分が行きたい学校あるいは企業、そういったところに自分がコンタクトをとって研修をする形のものをやっております。こういった方々が非常に力をつけて、トップアスリートの指導者として、今、非常に成功している状況があります。

また、中学校の指導者では、専門でない方がかなり多くいらっしゃいます。そういった方々に対しても、ことしは卓球にしよう、バレーにしようという形で、年3競技から4競技ぐらいローテーションで毎年研修を行っており、この人たちの指導に当たっているのは、県内のトップアスリートを指導してらっしゃる有名な指導者に指導していただいております。

それともう一つは、県の体育協会で、スポーツ少年団とかそういった広く多くの方々に、2月ぐらいでしょうか、グローアップ研修という形で、全国のいろいろなスポーツ少年団で活躍された方とか、いろいろトップアスリートを指導された方を年1回呼んで、講演会という形で研修会を実施しております。

そういった取り組みは地道にやっておりますが、やはり、委員がおっしゃるように、県民多くの方がスポーツを享受して日本一健康な県になって初めて、競技スポーツの頂点も高くなっていくのだらうと思っておりますので、そういった意味では、まだまだ教育委員会として、しっかりとした体系図をもって取り組んでいくことは必要だらうと思っておりますので、今後しっかり研究をしてまいりたいと思っております。

○蓬原委員 きょうは頭出しの日ですから、突っ込んだ議論をしていくと時間のこともあると思うので、調査事項を1年間何をやっていくかということを決めるのがきょうの特別委員会の大きな趣旨だと思いますので、今後のいろいろ議論していくための資料をお願いしておきたいことがあって、一つはオリンピックと国体の種目一覧。わかっているようで、意外と、どういう種目があるか全部100%把握しておりませんので、オリンピックと国体の種目一覧。

それと、県内の施設の現況。県立、それから市町村立あると思うのですが、その規模的なものですね。例えば、陸上で言えばタータンなのか、400メートルなのか、300メートルなのか、そういうことの現況を知るという意味で、その2つの資料をいただくと、今後議論していく中で大変ありがたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

それと、今、余談のことながら、太田議員の発言ですけれど、何かスカイツリー型、富士山型という考え方があるのだそうです。だから、そういうことも、また今後いろいろ議論していけばいいのではないかなということを感じましたので、それ以上の突っ込みはきょうはしませんが、その資料を1つ、2つ、よろしくお願ひしたいと。委員長、よろしくお願ひします。

○山下委員長 よろしいでしょうかね。

○日高スポーツ振興課長 準備していきたいと思っております。

○中村委員 今もちょっと話に出ましたけれど、最近、新聞・テレビで、各県そうらしいのですが、体育館とか、あるいは公共施設の中で、体育に関する施設で非常に老朽化が激しいということですが、今、蓬原委員から出た質問によりますと、練習のこともありましたけれど

も、その練習をどこですか、どういった場所ですか、いずれにしても問題があると思うんです。オリンピックでも、東京からいろんな人たちが来るためにも、そういった施設がどれだけ大丈夫なのかということが一番大事なことだと思うのですが、宮崎県の中で、体育館とか、あるいはそういった、スポーツ振興課に属するそういう施設に対して果たして老朽化している状況がないのか、それをどう把握しておられるかをお聞かせいただきたいと思います。

○日高スポーツ振興課長 今現在、宮崎で使っている、市町村を含めて県の体育施設は、宮崎国体のときに建設されたものがほとんどです。そういった意味では、もう40年、50年たっている施設ばかりですので、老朽化していることはもうわかっていることなのですが、ただ、いつまで使えるのかとか、そういったものも含めて、まだまだ使える分には使えると思っています。ただ、床を張りかえたりとか使いやすい施設にしていくとか、そういったことは今後検討いかなくちゃいけないだろうなどは思っているところですが、現時点で、県民がスポーツを楽しむという状況ではそう困っている状況はないのかなというふうに思っているのですが、ただ、今後、県外のいろいろなすばらしい体育施設がたくさんできておりますので、スポーツランドみやぎきとして今後考えたときには、その施設でどうなのかということは、当然議論していかなくちゃいけないことだと思いますが、今のところはそういった状況で認識しております。

○中村委員 わかりました。

○横田委員 いいですか。

○山下委員長 ちょっと待ってくださいね。

今、中村委員からもありましたように、蓬原委員から要請がありましたけれど、その施設の

築年、いつつくったのか、耐用年数がどれぐらいあるのか、そういうものぐらまで含めて提出していただくとありがたいと思います。よろしいですか。

○日高スポーツ振興課長 はい、わかりました。

○横田委員 教育委員会にお尋ねしますが、2ページの「選手の育成強化」のところに、発達の段階に応じた指導体制の確立というふういうたっておりますけれど、ゴルフにしても、卓球にしても、フィギュアスケートにしても、もう世界のトップアスリートと言われる人たちの中には、5歳とか6歳とか非常に年少のころから取り組みをしてる人たちが多くですね。ほかのスポーツもそうだと思うのですが、片やスポーツ少年団は、いわゆる勝利原理主義といいますか、勝つことだけを教えることが目的じゃないということもありますよね。そういった部分の整合性といいますか、何か整理をしておかないと、非常に、勝つことばかりに集中してしまうような気もするのですが、そのことについてはどのようにお考えでしょうか。

○日高スポーツ振興課長 委員がおっしゃるように、この発達段階というものは、非常にいろいろな大切な要素があると思います。

よく一般的に言われていることは、ラケット競技と言われるものは3歳から始めないともう遅いと言われております。卓球とかテニスとか、あるいはバドミントンとかそういった競技です。あと、高度な技術を要する競技、特に球技系です。サッカーとかバレーボールとかいう競技は、8歳から9歳で始めないともう間に合わないと言われております。もっと高度な技術を要する器械体操も、5歳とか6歳から始めないとトップアスリートにはもう厳しいだろうというデータも出ています。片や、未普及競技等では、高校

から始めても十分オリンピック選手で金メダルをとることができるという競技もたくさんあります。そういったことを含めると、早いうちからいろいろなスポーツに親しんでおくということは非常に重要だと思います。

また、最近言われ出したことなのですが、ゴールデンエイジという年齢があるのですけれど、見てすぐそのプレーをまねしてできる、プロがやっているものと同じプレーがすぐ、見ただけでできる年齢が、8歳から9歳、10歳とされています。その即座の習得を得るためには、その時期以前にいろいろな運動をしておかないと、そういった能力はつかないと言われています。誰でも見てすぐ、8歳、9歳になったらプロと同じプレーができるかという、小さいころにいろいろな運動をしていない子供たちは、それを獲得することができないと言われていますので、それをプレゴールデンエイジとって、3歳から8歳ぐらいの間に、特に器械運動系、鉄棒とかマット、跳び箱、あるいは逆さ感覚、あるいは投げる動作というものは5歳までにやらないと、野球選手が投げるようなきれいな投球フォームはもう二度と身につかないという臨界期があるそうです。

そういったことを考えると、やはり総合的にスポーツをどういうふうに教えていくのかということ、もっともっと研修を深めて県下の指導者が認識を持って、一番いいのは、また、ポストゴールデンエイジというものがありまして、これは12歳から15歳ぐらいの年齢のことなのですが、この時期は持久走とか、一番顕著なのは、ステロイドホルモンとってドーピングで使われるホルモンがあるのですけれど、12歳から15歳の子供たちには、血液を検査すると、ステロイドホルモンが夜寝ているときに分泌されてい

るというデータも出ています。この時期に何をやったらいいかというと、持久的な活動、あるいは白筋というか、速筋というか、そういうものを鍛える短距離走というか、そういったものがこの時期に一番発達すると言われてるので、よく長距離ランナーでは、12歳前後にそういった長距離的なトレーニングを積んでいない子は世界のトップアスリートにはなれないと言われています。あるいは、13歳から15歳にスピードトレーニングをやらないと、足の速い選手は育たないと言われているように、やはり一番適したときに適したトレーニングや練習をやっていくことが、オリンピックあるいは世界に羽ばたくような選手を育てる近道だろうというふうに考えておりますので、そういったことは、全体的には理解できているのですが、それぞれの競技団体できちっとシステムとして確立されている競技は幾つかあります。幾つかございますが、まだ全ての競技でそれが確立されているかというと、なかなか難しい状況がありますので、サッカーなどの競技がそういった事例で成功している事例なのですが、テニスもそうですね。競技団体が取り組んで、そういったシステムをいち早くほかの競技に宮崎県が移行していければ、まだまだ宮崎からオリンピック選手というか、トップ選手を輩出するようなことは可能だと思っておりますので、そういったことも考えて取り組んでいきたいというふうに思っております。

○横田委員 ほとんどの子供たちは、当然トップアスリートにはならないわけで、ただスポーツを楽しんでもらえればいいんじゃないかと思うのですよね。その中で、やはりきらりと光る将来の可能性というか、能力を発掘することが、将来の宮崎国体で総合優勝につながるんじゃない

いかと思うのですけれど、その発掘が非常に難しいんじゃないかと思うんです。そのあたりの、指導者の見る目といいますか、そういったものしっかりとつくっていかねばいけないなというふうにも思うのですけれど。何かありましたら。

○日高スポーツ振興課長 今、全国的にタレント発掘事業というのに取り組んでいるところがありまして、本県も一応それに着手しようという思いはあるんですが、ただ、すごくエネルギーと予算が必要な状況がありまして、また、2巡目国体等も決定すれば、具体的にそういった取り組みをしていかないと、全国の舞台では当然戦っていけないと思っておりますので、今、研究はしておりますし、いつでもできる状況にはしておりますので。ただ、今現段階の組織力と予算では、そういったところにはまだ取り組めない状況がありますので。ただ、いざ、そういった状況が整ったときには、すぐにでも取り組めるような研究はしっかりしていきたいというふうに考えております。

○横田委員 ちょっと話が変わりますが、応援ですよね、スポーツの応援。例えば、サッカーにしても野球にしても、スタジアムとか球場が一つになってすごい応援しますよね。ただ、宮崎はそういうプロスポーツがないから、なかなか応援の仕方がわからないとかいうのもあると思うのですけれど。でも、スポーツを好きになるというのは、別に自分がするだけではなくて、その場に行って応援するというのも非常に大きな要素だと思うんです。そういった応援の文化といいますか、それを育てることもスポーツ振興に非常に繋がるとお思いますので、例えば高校総体とか県民スポーツ祭とか、そういったいろいろな大会にできるだけ皆さん応援に行

きましょう、そしてみんなで楽しみましょう、みんなを盛り上げていきましょうと、そういったことも大事なかなと思うのですが、そういったことについてのお考えをお聞かせください。

○日高スポーツ振興課長 今、委員が御指摘いただいたことは、非常に重要なことだと思っております。例えば、プロスポーツでも何でも、宮崎で根づくかどうかということは、観客が何人入ったかで決まると思うんです。そういった意味では、やはりスポーツというものは、やる・見る・支えるという。支えるということはボランティア活動等もあるので、そういったところは、宮崎もいろいろなイベントをする中で、ボランティアは非常に充実してきていると思います。青島太平洋マラソンも、宮崎のボランティアの子たちの笑顔、高校生の笑顔がすてき、元気をもらえるからと、年々ふえております。そういった形で、ボランティアをふやすとか、あるいは見る環境を充実していくということも、今後考えていかなければならないと思っております。

また、今、各地域で4校定期戦とか2校定期戦をやっておりますが、そういったもので応援合戦をやるという取り組みももう十何年もやっておりますし、高校生がそういったスポーツを見る、スポーツ文化を享受する、楽しむ、そういった醸成もずっと、今、図っているところでもありますので、引き続きこれからも、そういったスポーツを見る・支える人口を少しでも多くふやしていくことも考えていきたいというふうに思っております。

○横田委員 ありがとうございます。

○山下委員長 よろしいですか。何かありますか。いいですか。

○清山委員 2つ質問したいのですけれども、

各都道府県がスポーツ振興に力を注ぐ中で、やはり差別化した取り組みなども必要だと思うのですが、施設以外にアスリートの方こそ、身体管理、すごく慎重であられると思うんですが、一つ、本県に来られたときに、食事の面などはそれぞれの宿泊施設で独自に対応されているのか。例えば、スポーツの種類によって必要カロリー量とか、さまざまな組成が違うと思うのですけれども、そういったところを何か取り組みをされているのか。

そして、教育委員会のほうで、スポーツメディカルサポートとありますけれども、こういうヘルスケアサービスも、何か特別に取り組みをされているのかを教えてください。

○日高スポーツ振興課長 今、トップアスリートですばらしい記録を出す上では、やはり食事はもう欠かせないものだと思います。

今現在、スポーツ振興課が積極的にそういった事業としてやっていることはありません。ただ、研修等では、必ず各学校の部活動の研修で、栄養の指導を管理栄養士の方にさせていただくということを行っております。

また、ホテル独自に、スポーツに実績のあるホテルがたくさんあるのですけれども、例えばグランドホテルの巨人軍とか。そこのおかみさんなどが中心となって、そのホテルグループでそういった研修会をやって、栄養管理をした、トップアスリートに合った食事を、カロリー計算までして出すようなホテルは、宮崎では非常にふえているのではないかと思います。

また、高校生レベルが合宿でやるようなところでも、例えばカヌー等が、今、全国優勝するようなチームがあるのですけれども、新富町に、ちょっと名前が出てきませんが、民宿がございます。その旦那さんとおかみさんが、きちっ

と栄養管理というか、カロリー計算までして食事を出していただいているような、そういった——初音旅館ですね、初音旅館。済みません。そういったところもふえてきておりますので、これが確立されれば、もっともっとスポーツランドみやざきに貢献できるのかなと思っておりますので、すばらしい環境は整いつつあるのかなと思います。

そして、スポーツメディカルについてですが、多分、宮崎のスポーツメディカル体制は、全国でトップクラスにあると思います。今、県のスポーツ医・科学委員会のほうで、宮崎大学医学部の先生あるいは野崎東病院のトレーナーを中心に——日本体育協会に公認のスポーツドクターを養成するシステムがあるのですが、これは各県の割り当てが1人か2人しか毎年なくて、この計画でいくと、競技団体全て40競技団体に満遍なく行き渡るには、10年も20年も、あるいは30年もかかる状況があるのですが、それでは、即、今困ってる競技団体に間に合わないということで、今現在、スポーツトレーナーあるいはスポーツドクターの試験を受ける前段階として、県独自の認定制度を設けて、それに合格した方々を国体や高校総体のスポーツトレーナードクターとして派遣をしている状況があります。また、宮大の医学部のほうで、毎年国体選手を対象にメディカルチェックも行っていただいております。そういった実績が、雪印の合宿等にもつながっているというふうにお聞きしておりますので、まだ我々が理想としている姿からすると、まだまだ本当に至らない状況ではあるのですが、着実に県のスポーツ医・科学委員会のほうでしっかりとした取り組みはしていただいておりますので、今後とも、県としてもしっかりサポートといたしますか、支えていきたいなとい

うふうに思っております。

以上でございます。

○清山委員 食に関して、民間でそれぞれ取り組まれているということですが、そういうところを、もうちょっと科学的な裏づけなどを行政なり県がサポートして、一つの県の強みとして対外的に売り出してもいいのではないかなと思ったんです。食を宮崎県も売り出しているわけですから、そういう発想も、今後どうかと思いました。

以上です。いいです。

○日高スポーツ振興課長 ありがとうございます。これからも、そういったことについて研究してまいりたいと思います。

○山下委員長 商工観光労働部からではないですか。

○孫田観光推進課長 特に、トップアスリート、一流の選手の方々の食の管理あるいはメディカルの管理というものは、非常に大変な、体がそれこそ基本のものでありますので、非常に注意をしなくちゃいけないというふうに考えておりますが。

先ほど、教育委員会のほうからもお答えがありましたように、宮崎は長年の間、合宿・キャンプということで、そのノウハウを蓄積する中で、特に食事については選手の皆さんから、宮崎の食事は大変いいということで御評価をいただいているところです。

一方、科学的なことになると、現在、それぞれのところで取り組んでいただいておりますし、各チームのほうからのオーダーに応じて、それぞれ取り組んでいるということですが、例えば、先ほど競技別の強化拠点施設に指定されましたシーガイアにつきましては、東京のナショナルトレーニングセンター、

味の素のトレセンのほうにシェフを派遣いたしまして、研修を受けさせるというような取り組みも行っていると聞いております。

○山下委員長 よろしいですか。

それでは、質疑もないようですので、これで終了したいと思います。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 それでは、執行部の皆さん、御退席いただいても結構です。どうも長時間ありがとうございました。お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。

午前11時25分休憩

午前11時27分再開

○山下委員長 それでは、委員会を再開をいたします。

まず、先日開催されました委員長会議の結果につきましては、先日の常任委員会での資料の配付がありましたので、説明は省略をさせていただきます。御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、協議事項の（1）の「委員会の調査事項等について」であります。

お手元に配付の資料の1の2をごらんください。

資料に記載されております4つの項目は、特別委員会の設置を検討する際に、各会派から提案がなされた項目をまとめたものであります。本日の初委員会で正式に決定していただくこととなっておりますので、御協議をいただきたいと思います。御意見をお願いをいたします。資料1の2番、調査事項。まず、合宿・スポーツキャンプ誘致に関する事、国体誘致に関する事、体育施設の充実に関する事、人財育成に関する事の4つの柱であります。

○十屋委員 先ほど説明もありましたけれど、食と医という部分を含めると、合宿・スポーツキャンプ誘致「等」と入れていただいて、その「等」の中で、医療メディカルと食という部分も入れていただければありがたい。

○山下委員長 食を入れて。

○十屋委員 食とメディカル。

○山下委員長 入れなくてもいいですかね、項目、スポーツ誘致「等」。

○十屋委員 その部分が、ちょっとどこでつかまえるか。

○山下委員長 大事なことなんですよ。メディカルと、清山委員が出した食という。

○蓬原委員 私も、そのメディカルのことについてはちょっと関心があって、執行部の説明はちょっとあれでしたから、ああ、そうかと思ったのですが。そういう意味では、ちょっと「等」ではなくて、5項目めに入れたぐらいのほうがいい国でもいろいろやっていますよね、スポーツ科学がどうか。入れたほうがいいのかもしれませんがよ。

それと、さっきおっしゃったゴールデンエッジがどうか、物すごい専門的な部分が出てくるわけじゃないですか。——と思いますけれど。

○十屋委員 賛成。

○山下委員長 そのほか何かあれば。

○渡辺委員 設置目的もスポーツ振興に関することということで、ここの調査事項だけですと、競技力の向上とかオリンピック、国体とかにあえて絞るというのも一つのやり方かもしれませんが、地域スポーツとか県の柱の中にも一つ立ってる裾野を広く競技者を広げるという観点の調査項目が、この中にはちょっとどこにも当てはまりづらいかなという気がしますので。広ければ人財育成とも関係なくはないというこ

とになるかもしれませんが、表現の縛りはあるかと思うのですが、もう少しその要素も加えていただけるといいんじゃないかなというふうに思います。

○山下委員長 今、言われたのは人財育成。この中に、地域におけるスポーツの底上げと言われましたけれども、地域の……

○渡辺委員 地域スポーツ、生涯スポーツという意味です。今、なるほど、おっしゃったように、生涯スポーツであったりとか地域スポーツという要素が、なかなかどこにも当てはまらないという感じが、今の4項目ではするのですけれど。

○蓬原委員 さっき、スカイツリー型なのか富士山型かという言葉を使ったのは、そういうことなのです。トップアスリートが育つのはスカイツリー型で、優秀な選手をばっと育てていく。富士山型というのは裾野を広げて、そういう楽しみでやる人、健康のためにやる人、いろいろな人がいて、その中から富士山の頂上を目指す人が出てくるということだから、そういう意味では、裾野の部分をどうかしていくっていう話かなというふうな（「おっしゃるとおりです」と呼ぶ者あり）意見かなと思います。（「決して否定すべき話じゃないな」と呼ぶ者あり）

○星原委員 今、私はスポーツ少年団のほうをやっているので、本当に県民が広く云々という、今、渡辺委員が言ったような形のものもやはり入れるべきじゃないかな。国体誘致というものは、先ほど説明を受けたように、10年後あたりを目指しているのだから、まだ今からでも十分間に合うと思うのだけれど。それよりもまだ、県民に対してどういう形でスポーツ施設が足りているのかとか、あるいは今いろいろな問題が起きてないかとか、そういう掘り起こしも逆に

いいんじゃないかなという気はしてるんですけどね。

国体の部分もちろん大事なので、どこかに調査に行っても、今やっているところなどの話を聞くぐらいで、何かを提言するとなるとなかなか厳しいのかな。それよりも、今の現状の宮崎の総合スポーツなどの実態とかそういったものの、抱えている課題とかそういったものは何かあるのかということなどもいいんじゃないかなというふうに思うんですけど。

以上です。

○山下委員長 きょうは第1回ですから、スポーツ振興課長がほとんど質問に対しての答弁をしてくれたようなのですけれども、聞いている限り、いろいろな先生の教え方とかいろいろな協力も充実していますよとか、そういう答え方が中心だったかなと思うんですけど、果たしてそうかなと。国体の結果も30位台で、結果的に。自信持ってと言われていましたけれど、果たしてまた12年後に、3年後だったかな、それに対してやはり競技力を上げていかないと、そう1年、2年でできることでもないでしょうし。天皇杯をとれるぐらいの目標設定をやっていくためには、基本的には競技力を上げていく必要もあるのかなと思うんですよ。そこのスキームでしょうかね。

○松村委員 ことし1年間だけの特別委員会ですけれど、今、スポーツ関係で教育委員会がお答えしていたことは、一方では常任委員会でお話を醸成することもできる話でもありましたよね。片方、商工のほうは、商工だけでやることもありますよね。もちろん、スポーツと健康とかいう話になると、福祉保健的な要素もありますよね。だけど、物すごく広がって、あれもこれも、スポーツのあり方とか子供たちの将

来の育成とか、それを考えるんだったら、もっと違う発想でちょっと長いスパンでやっていかないといけないと思うんですけど。

今回は、せっかくのビジネスチャンスである東京オリンピックというものがありますよと、それに、今やっておかないといけませんよということに絞って特別委員会を組んで1年ほどやって、2020年の東京オリンピックに、宮崎県がどうやって取り組みましょう経済効果を得られるか、そのためにはどうしたらいいのかというところにある程度絞り込んでいかないと、せっかく商工とかをあわせて抱き込みでスポーツをやるっていうことは、スポーツを商工のレベルで産業化していくということで宮崎県の県民にどうやって落としていくか、あるいはトップアスリートが来て、子供たちが俺でもやれると思うようなチャンスを与えられるかというところに絞っていかないと。この特別委員会としての役割というところがあるのかなと思うので、そういったことについて考えていただくとありがたいなと思います。

○山下委員長 この中にオリンピックという項目が入っていないですよ、調査項目のこの中に。話題としては、かなり議論はされたのですけれど。

○中村委員 先ほど皆さんの意見を聞いて思ったのは、オリンピックに関する事、それから国体に関する事、それからメディカルもそうだけれど、そういったものが主に出たんですよ。だから、考えるのに、今、松村委員が言ったように、オリンピックに関する事、それから国体に関する事。国体が13年後か14年後というけれど、決して早くはないんです。前の国体のこと考えると、学校の先生方をざっと取り寄せたり、ろくなことをやっていないんです。

ですから、前回の反省を踏まえた上で今回立てていかないと。

今の6歳の子供たちが国体にちょうど間に合います。ですから、もう一つ、私から言わせてもらおうと、少年野球連盟の会長を35年やっていた。スポーツ少年団のことを、全然わかっていない。スポーツ少年団のありがたさ、誰が子供たちを教育してるんだと。あなた方は小学生以下ですよ。しかし、我々は小学生から含めて中学になる前まで、体育のことを教えていないときに教えるのは一般の県民なんです。そういうことで、もう一つ考えさせなければいけない。だから、少年団に対してどう取り扱いをするかということも、一つの問題であろうと思う、この競技力向上の中でも。スポーツ少年団ができたのは、東京オリンピックの後なんです。東京オリンピックでああいう成績で、——いい成績だったんだろうけれど、どうしてもスポーツ少年団をつくらなければいけないということできたわけだから、東京オリンピックを考えると、スポーツ少年団の教育委員会でのあり方とか、そういったことはやはりここの中に入れていかなければいけない。3つか4つに絞ったほうがいいと思うんです、やはり。「あんまり広げてもいけないだろう」と呼ぶ者あり）そんなにあれもこれもといたら、それは、今さっき話があったように、文教警察企業常任委員会で話ができるし、商工建設常任委員会でも話ができるわけだから、だから、特化していかないとという気がします。

だから、さっき皆さんから出でいた意見が僕は正解だろうと思うんです。あれがまとまった上で、3つか4つだったと思います。

○星原委員 それと、体育施設がありますが、うちもこの間事故があったばかりなんです。

バブル期に結構いろいろ施設をつくってきて、もう30年、40年たって。だから、やはりキャンプを誘致するにしても、いろいろなことをしていくにしても、施設の充実で。そして県内にどちらかというと、今、県央が中心になっていますから、今度つくりかえる施設があれば、県北とか県南とか、高速道路もできて少し時間的にはもう短くなってきていますので、少し地域スポーツを広げる意味でも、施設の分散などがどうなのかという。だから、この施設の分のいろいろな、先ほども出ていた耐用年数がどのくらいなのか、そういうことを見ながらの中で、やはりその部分はちょっと調査してもいいのかなという気がするんですけど。

○中村委員 だから、答えの中で、耐用年数があるのかと聞いたときに、まだ今のところはもっていますと言っていたけれど、うそでしょう。この前、体育館の床が剥げてけがをしたじゃないかって、ここまできたのだけれど言わなかったのです。

○星原委員 この間、うちの体育館で事故があったものですから。

○蓬原委員 いずれにしても、キャンプを誘致するにしても、それだけの施設が整っていないと（「できない」と呼ぶ者あり）トップアスリートは来ないわけですから、当然、受け入れ施設としてどうなんだということはやるべきでしょう。

特化して、ある程度、特別委員会の意味というものは、部局を横断的にやらないといけないこと、それと緊急性があること、やはりこれが基本だと思いますから、常任委員会ではもうそちらにお任せして、ある程度特化したほうが、いい成果が1年間での報告ができるのかもしれないです。そんな気がします。

○徳重委員 合宿・スポーツキャンプの誘致ということについてはちょっと疑問を持つ一人なのだけれど、既にたくさんの合宿・スポーツ——スポーツランドということで、全国から大学なり社会人なりプロの集団なり来ておるわけですが、おいでになると、もうグラウンドも施設も、何カ月か、1カ月なり2週間なり3週間、全く地元は使えないわけですよ。その人たちが全部占有してしまうわけですから。そうしたら、本当に宮崎でつくったもの——確かに商工観光労働部としてはありがたいですよ。お客さんもおいでになったり、それなりの効果はあると思うんですけど、スポーツの振興という面からすると決して、これ以上たくさんおいでいただくことが宮崎のためになるのかなというのをちょっと一つ疑問に思うわけです。それぞれトップアスリートがおいでになるわけですから、それなりの効果はあると思うんですけど、これに余り我々この委員会が一生懸命になる必要があるのかなという気がしておりますが。まあ、私の意見として聞いていただければと思ったんですけど。そこまでこの委員会で協議する、検討する必要があるのか。

○内村委員 この委員会を最初に設置するときに、オリンピックとか、それを前提にした分のスポーツ振興をということで作ったんじゃないか、そういうことを要望していたから、これはやはり避けられないものじゃないかなと思いますけれど。

○山下委員長 よろしいですか。ちょっとまとめたいと思うんですけど。

今、4つの項目をここに立てさせていただきました。そして、今、清山委員からスポーツメディカルと食の問題が出て、この5つにしたかどうかという、冒頭、話も出たところすけれ

ど。今、徳重委員からもありましたし、内村委員からもあって、当初、この委員会を立ち上げるときに、幹事長会議でもかなりの議論があったと思うんですけども、その中で、間近に迫ってきたオリンピック、そして国体等に対しての誘致をする中で、いろいろなスポーツ競技を本県に誘致して、食の提供をしたり、そういった施設の整備、そして受け入れ体制も充実しているということが大きき議論だったと思います。そのことを踏まえて、出だしで4つの項目を立ち上げさせていただきました。

そのことで、皆さん方から出た議論の中で、この1番と2番、この項目を、できたら一本化したいなという思いもあってちょっと整理をさせていただきたいと思うのですけれども。スポーツキャンプの誘致や体育施設の充実、人材の育成など、各会派から出された問題をこの4項目に入れさせていただいたのですが、1番目の合宿・スポーツキャンプ誘致に関する事、また2つ目の国体誘致に関する事については、受け入れ体制の整備や誘致のためのPR活動など、調査項目が重複するということが考えられます。そこで、調査事項の（1）と（2）をまとめて、1番目にスポーツキャンプ・合宿、国体等の誘致に関する事にまとめたらどうかということも、事務局サイドで協議をさせていただいたところですよ。おわかりでしょうか。1番と2番をですね。その中で、1番オリンピック関係を見据えた中でいろんな施設充実やら、そういうこともこの1本の中でできるのではないかと。

そして、2番目に体育施設の充実に関する事、それから4番目の人財育成に関する事、この3本の柱ということを一応、内部で協議をさせていただいたところなのですけれども、こ

れをやるのであれば、じゃあ、メディカル環境をどうするのか、この人財育成の中に入れた形で、受け入れ側としてPRすることや実態調査とか、そういうこともちょっと身近にしていくなきゃいけないのかどうかですね。

○星原委員 全部重要なことだと思うんです。だから、出たように、3本ぐらいに絞って、来年以降もずっと、ひょっとしたらこの特別委員会が1年で終わるのではなくて継続していける方向性もあるので、そういうことも考える中で、ことしはどういうことをやろうかということでもいいのかなと思うんです。全部重要なんですよ、いろんな意味で。やっている中で、また課題も見つかってくるかもしれませんので。

1年間で全てを終わらせるということではなければ、委員会、特別委員会、2年、3年継続でやった委員会もあるわけで、特に、このスポーツの関連のことは、1年で終わることじゃないと思うんです。中村委員からも出たように、スポーツ少年団とか、そういう小さいときの子供たちのことからということになると範囲も広がるわけで。だから、ことし、今やろうとすることで3つぐらいに何か絞れば、そして残り分はまた来年以降でもいいのかなという気がするんですけれど。その辺でまとめてもらえれば。

○山下委員長 皆さん方から出された意見は、十分、私たちもまた考慮しながら、この3つの項目でまとめさせていただくということでよろしいでしょうか。

○清山委員 目的というのを、ある程度、理解したいと思うんですけれど、調査事項はいろいろあっても、私がさっき食と医療と言ったのは、あくまで手段として。目的は、合宿誘致だったりトップアスリート誘致だったもので。目的を、そういうトップアスリートとか合宿誘致に置く

のか、それとも地域のスポーツ振興とか充実に置くのかでちょっと違ってくるのかなと思うんですけれども。ある程度、1年の特別委員会という性質を理解すれば、やはりプロジェクト的な合宿誘致とかオリンピックに向けたものを目的と考えた上での項目という理解でいいでしょうか。どうでしょうか。その過程で体育施設の充実も図れて、地域の人材育成も必要だということなんですけれども、目的はそこに置いていいのかなと思って。そこがはっきりしてないと、何かぶれそうですよね。どうでしょうか。それとも……。

○山下委員長 今、清山委員からも出ましたけれども、一つは、合宿、スポーツを誘致するために、施設整備もちゃんと現況を見ながらすべきことを提案しないといけないという大きな目的はあろうと思うんですよね。その中で、やはり底辺を広げていくための人財育成。出ましたのが、今度は、誘致する以上はメディカル的な問題とか安全安心な食があるんですよとか、そのリンクというのはどう整理ができますかね。これ、ちょっと目的を——大きな柱というのは、オリンピックを見据えた中でのキャンプとか合宿とか、それが一番の大きな目的だろうと思うんです。

○清山委員 そういうことをちょっと確認したかった。大きな目的とは何かというところ。

○山下委員長 大きな目的は、そのことが一番かなとは思った、立ち上げだったと思うんですけれど。

○蓬原委員 メーンテーマは、そういうことだろうと思うんですけれど、もっと大きな目標は、宮崎県勢の浮揚。宮崎県がこのことによって、経済的にも人材的にも非常に活力があって、宮崎県全体が元気がよくなって、宮崎県がよくな

ることだと思えるんですけど、その一歩手前の目的としては、メインテーマとしては、やっぱりオリンピックであり国体であり、そのことによって、それに出場する選手をつくるとか、トップアスリートをつくろうということかなというふうに思いますけれど。

○山下委員長 新聞を見ていても、全国各県、オリンピックに関連するいろいろな誘致、食の提供とか、そういうこともどんどん取り組み等も始まっているようでもありますから、それを、さっき言われたように、宮崎県も取り組むことが一番大事だろうと思っていますから、そういったことについては、やはり活力のある特別委員会にしていきたいと、そのように思っていますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 では、そういうことでよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、ただいま御協議いただきましたとおり当委員会の調査事項を決定したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 それでは、そのように図ってまいります。

次に、協議事項（2）の委員会の「調査活動方針・計画について」であります。

活動方針（案）につきましては、資料1の3のとおりであります。

活動計画につきましては、資料2をごらんください。これにつきましては、議会日程や委員長会議の結果を考慮して、調査活動計画（案）を作成いたしました。

活動計画の案につきましては、何か御意見ありませんか。ありましたら、お願ひをいたします。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 それでは、この案のとおり、今後1年間の調査活動を実施していくことにしたいと思いますのですが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 ありがとうございます。それでは、そのように決定をいたします。

次に、協議事項（3）の「県内調査について」であります。

再び、資料2をごらんください。

先ほど決定しました調査事項を踏まえまして、県南調査、県北調査の調査先につきまして御意見等がありましたら、何かお出ししていただきたいと思ひます。7月上旬、県南地区、7月3日と——はい。

○十屋委員 先ほど蓬原委員が求めた施設の一覧表、その資料をこの前までに出していただいて……

○山下委員長 6月20日のですね。

○十屋委員 そのときにですね。

○山下委員長 特別委員会でお出しいただく。

○十屋委員 それで、どこの施設を見るか、いろんな制度を見るかによって決まると思ひますので。日程的には全然問題ないと思ひますけれど。（「そうですね、20日の……」「相手先があることですし」「そうですね」「7月の」と呼ぶ者あり）

○山口書記 今、横田委員がおっしゃいましたが、スケジュール的には、次回、6月の委員会において県内調査の行き先を決定をいただくという形になります。事務局としては先方との調整の時間をいただけるとありがたいと思ひます。

○山下委員長 資料要求があったものが、渡辺委員からの——図師委員からも同様の御発言

だったのですが、県内の総合型スポーツクラブの状況でしたかね。そのことの要求がありました。そして、蓬原委員から、オリンピック、国体の種目の一覧、それから施設一覧表ですね。これについては、もう建設年月日等も入れてください。そして、もちろん所在地等も入ってくると思います。そういうものをお願いしたいのですが、事前になるべく早くお願いして、皆さん方に個別配付でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 個別配付でですね。では、それを執行部側をお願いして、なるだけ皆様方に議会中の早いうちに。6月6日かな、開会が。（「開会、6日」と呼ぶ者あり）6日、そのぐらいをめどに、早目に出していただくということで。

では、そのようにお願いをしたいと思いますが。それで、調査先については、ちょっと事務局側とまた調整しながら、なるべく早く相手先にもお願いしていきたいと思います。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 では、そのように計らいたいと思います。

それでは、ただいまの御意見等を参考にいたしまして日程を組みたいと思います。

それでは、なお、県内調査まで余り時間がないうことから、調査地との調整などについては正副委員長に御一任いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 それでは、そのような形で進めさせていただきます。

そのほか、何かありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 次に、先ほど協議していただき

ました調査事項を踏まえまして、次回の委員会での執行部への説明資料要求等について何か御意見や要望はありませんか。よろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 それでは、意見がないようですので、次回の委員会の内容につきましては正副委員長に御一任をいただきたいと思います。

最後になりますが、協議事項（5）の「その他」でございますが、委員の皆様から何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○山下委員長 ないようですので、終わります。

次回の委員会は6月定例会中、6月20日午前10時からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上で本日の委員会を閉会いたします。ありがとうございました。お疲れさまでした。

午前11時55分閉会